

第 31 期目録委員会記録 No.17

第 17 回委員会

日時：平成 21 年 3 月 7 日（土）14 時 00 分～17 時 00 分

場所：日本図書館協会 5 階会議室

出席：中井委員長、稲浜委員、木下委員、平田委員、古川委員、横山委員、渡邊委員
<事務局>磯部

資料：

1. 「図書館雑誌」6 月号特集「WEB 検索時代の目録」(2 ページ-A4, 事務局)
2. 国際目録原則覚書(日本語訳)(16 ページ-A4, 横山委員)
3. 国際目録原則用語集 英 日索引(1 ページ-A4, 横山委員)
4. 「国際目録原則覚書」2008 年 4 月(Worldwide review)版に対する当委員会コメントへの対応状況について(1 ページ-A4, 横山委員)
5. 目録委員会からの国際目録原則へのコメント(IFLA Statement of ICP vote form)(4 ページ-A4, 横山委員)
6. 2008 年 10 月 31 日 RDA 草案 第 2 章 コアエレメントのうち、シリーズ名からキャリア種別まで(5 ページ-A4, 横山委員)
7. RDA 最終草案コアエレメントの検討: Extent(3.4)(3 ページ-A4, 渡邊委員)
8. RDA 最終草案 第 1 章 表現形と個別資料の属性の記録に関するガイドラインの主要部分(3 訂版)(2 ページ-A4, 古川委員)
9. アクセスポイントに関する各章(第 6,9-11,16 章)の骨格(5 ページ-A4, 古川委員)
10. RDA 最終草案 第 5-6 章の概要(4 ページ-A4, 古川委員)
11. RDA 最終草案 第 7 章 内容の記述(3 ページ-A4, 木下委員)
12. RDA 最終草案 第 8-9 章(7 ページ-A4, 渡邊委員)
13. 2008 年 10 月 31 日 RDA 草案 第 11 章団体の識別(Identifying Corporate Bodies)概要(5 ページ-A4, 横山委員)
14. RDA draft Section 8,9 について(2 ページ-A4, 平田委員)
15. RDA コアエレメントの検討~Title proper, Earlier variant title, Later variant title(6 ページ-A4, 稲浜委員)
16. 第 31 期目録委員会記録 No.16
17. 第 31 期目録委員会記録 No.15

1. 報告事項

- 4 月から中井委員長が NDL 関西館に異動予定である。
- 4 月から NDL の原井氏が委員として参加予定である。
- NDL 講演会は約 260 名の参加があった。

- NII 講演会は約 250 名の参加があった。
- 図書館雑誌 6 月号で目録を取り上げる。目録委員会の活動について、渡辺委員に触れてもらう。4 月 15 日締切。編集委員会としては、NDL についても触れて欲しい意向を持っているようである。

2. 国際目録原則

横山委員から資料 2-5 に基づき、国際目録原則について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- IME-ICC 参加者に対して送付された 2008 年 10 月 31 日版への投票の結果を反映した最終版は 2 月 18 日に英語、スペイン語が IFLA 目録分科会のウェブサイトを出され、3 月 2 日現在、日本語を含め 10 ヶ国語で読める。韓国語、アラビア語でも出る予定。冊子版は Sauer 社から出版される予定。レゾリューション（決議）も翻訳の依頼があり、NDL で翻訳し IME-ICC 事務局に提出した。
- 決議によると、IME-ICC の任務は、目録分科会が継承するようである。
- 最終版では、「6 Authority Record」の項目は消えているが、内容は残っている。
- Medium についての指摘は、採用されなかったが、現在でも整合性はある。
- レコードとデータの区分が曖昧との意見があったが、そのまま残ってしまっている。
- これまでと比べて、今回の投票結果は公開されていないし、最終版に検討経緯についての前文もない点は残念である。
- 国際目録原則用語集の英日索引については以下のようにする。
 - Type of carrier、Type of content は省く。
 - Collection については、1 , 2 で別ける。
 - 旧訳は削除する。
- 出版方法について投票があった。言語ごとに取りまとめる案に投票した。
- 日本語訳の First named については、表示から記名となり、焦点は絞られた。

3. RDA について

横山委員から、資料 6 に基づきシリーズ名からキャリア種別までについて説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- シリーズ
 - ホールレベルとアナリティカルレベルがあるので、シリーズだけではないはずで、セットものや雑誌などの本タイトルもあるはずである。シリーズという表示を上位書誌レベルに関する表示にすべきであろう。この規定がなぜあるかということ、ISBD、AACR2、NCR でも単行レベルの記録を作る規則であることが暗黙の了解というより無意識の前提となっているからである。その

前提自体を見直す必要があるのではないか。

- 下位レベルである内容細目については、RDA では第 25 章の関連の部分にある。内容細目は転記ではなくカタログガーが構成する要素だから、このような扱いになっているのか？
- NCR を見ると、やはり単行レベルで作ることが前提になっている。RDA は情報源についてはホールレベル、アナリティカルレベル別に規定があり、従来の規則よりは改善されている。今後目録規則は、集合レベルや構成レベルの記録も作れる規定とすることを考えるべきではないか。
- 2 章は体现形を識別する規則。内容細目は識別のために用いられていなかった。
- MARC21 でもシリーズ表示とシリーズ標目が区分されている。
- 現在の規則では、全てのレベルの体现形を記録する規則になっていない。
- 識別子
 - RDA では識別子の範囲は緩やかである。他の規則などでは語彙を示す例が多い。
- キャリア種別
 - キャリア種別の定義と例は複雑で判りづらいが、定義自体は国際目録原則と同じである。

渡邊委員から、資料 7 に基づき Extent について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- 3.4.1.10 は体现形として不完全な場合の規定だが、個別資料で不完全の場合は 3.21 で規定されている。判らない時は core element ではなくなるので、書かなくても良いということのようである。
- オンラインリソースについては、例が 1 の場合しかなく、複数の考え方があるのかどうかさえ明確ではない。オンラインリソースについては、Extent 自体にあまり意味がないということかもしれない。

古川委員から、資料 8 に基づき第 1 章について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- 継続資料という概念は放棄されたようである。
- Serial の「期限が限定されても・・・」は用語集だけに掲載されている。定義と用語集とで一致していない。
- 順序表示のないものも Serial に範囲に入っている。

古川委員から、資料 9 に基づきアクセスポイントの骨格について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- アクセスポイントで使う属性だけでなく、典拠レコードで使う属性も挙げられている。RDA は、書誌レコードと典拠レコードに関する目録規則である。このことは RDA の特徴のひとつであると言え、国際目録原則でははっきりと表れている。

- Constructing Access Point が前にあったが、最後になっている。現在の方が作業順で判りやすい。

古川委員から、資料 10 に基づき 5-6 章について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- 第 5 章
 - 主格の The だけを省くかどうか曖昧な規定になっている。
- 第 6 章
 - 複数の Work に対応する体現形の集合である Aggregates の切り分けの議論は、あまり進んでいないようである。

次回以降の委員会の予定

4 月 25 日 (土)

以上